

(様式1)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえた
アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【実践地域】

番号	11	機関名	埼玉県戸田市
----	----	-----	--------

実践地域名	拠点校名	児童生徒数
戸田市	戸田第一小学校	955名
戸田市	戸田第二小学校	1004名
戸田市	喜沢小学校	387名
戸田市	笹目東小学校	759名
戸田市	芦原小学校	683名
戸田市	戸田中学校	741名
戸田市	笹目中学校	615名

※ 児童生徒数については、平成30年3月現在、拠点校に在籍する児童生徒数を記述する。

1 実践研究の具体的内容(概要図:補足資料1)

各種学力調査に基づく学力等の実態把握及び授業研究会を通して、エビデンスに基づく効果的な指導方法の改善を行った。具体的には、各種学力調査から得られる結果を基に効果の高い指導方法を検討し、拠点校各2名の市内研究員(アクティブ・ラーニング研究員)を核として、授業改善の具体的な手立てを検討し、その知見や実践を市内で共有することにより、市全体の指導方法改善(指導用ルーブリックの作成)につなげた。あわせて、アクティブ・ラーニングによる児童生徒の変容を把握するための評価の手立て(自己評価用ルーブリック)についても作成し、指導改善につなげてきた。なお、本市で目指すべき児童生徒像については、「資質・能力ルーブリック」としてまとめ、授業改善と共にカリキュラムマネジメントの視点としても取り入れ、三つのルーブリックを作成することができた。

(1) アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善

市内18校<拠点校7校(小5校、中2校)及び協力校11校(小7校、中4校)>にて、アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に取り組んだ。拠点校は、各種学力調査において、学力が概ね高いとみられる小・中学校、学力に課題があるとみられる小・中学校、学力の伸びに課題のある小・中学校から選定した。なお、拠点校では、次の5つの視点について、中心に取り組を進めていった。

① ねらいの明確化

- ・アクティブ・ラーニングの授業を通じて、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、教員で共有する。
- ・各単元(題材)において、アクティブ・ラーニングを行う時間を明確に位置付ける。

② 課題設定の工夫

- ・児童生徒が課題解決に対して意欲をもつ課題を設定する。
- ・学力低位層の児童生徒でも参加が可能な課題の設定(対話に参加できる工夫)

③ 教材作成の工夫

- ・「アクティブ・ラーニング 6つのチェックポイント」を活用した教材作成
- ・協調学習・思考ツール・ICT機器を活用した教材開発

④ 児童生徒の実態の把握

- ・事前の把握 児童生徒自ら課題意識をもち、連続発展できるような課題の設定を工夫する。
- ・授業中での把握(対話の確認) 児童生徒の双方向の対話をつくる。
学力低位層の児童生徒が発言できるようにする。

⑤ 児童生徒の変容の把握(評価)

- ・教師は、子供の思考の深化による変容を客観的に確認する。
- ・前時授業や単元冒頭において、事前の思考を把握する。また、授業の終末、学期の終わり(小・中学校)、中間・期末考査など(中学校)において、事後の思考を把握する(株式会社ベネッセコーポレーション開発による記述式の考査の実施)。これらについて、事前と事後を比較し、児童生徒の変容を把握する。

(2) 市内アクティブ・ラーニング研究員による授業研究会

市内アクティブ・ラーニング研究員13名と準拠点校からの希望参加者および指導主事とで、合計7回の授業研究会を下記のとおり実施した。なお、協議会では、戸田市アクティブ・ラーニング6つのチェックポイント(補足資料2参照)を基に協議し、よりよい指導の在り方(ALを促す要素の抽出)や望ましい学びについて議論した。その結果をまとめ、3種のアクティブ・ラーニンググループリックの作成を行った。

- ① 戸田第一小学校 9月27日(水) 授教科等名 道徳
- ② 戸田第二小学校 11月22日(水) 教科名等 算数
- ③ 喜沢小学校 11月7日(火) 教科名等 道徳
- ④ 笹目東小学校 11月17日(金) 教科等名 国語
- ⑤ 芦原小学校 9月6日(水) 教科等名 社会
- ⑥ 戸田中学校 1月19日(金) 教科等名 社会
- ⑦ 笹目中学校 6月12日(月) 教科等名 理科

なお、多様な指導形態にも応じた授業分析を可能とするよう、株式会社ハイラブルの音声議論評価サービスを活用し、グループ時の学習について授業分析を行っている。(上記①②⑤の授業研究会で実践)(音声議論評価サービスについて 補足資料3参照)

(3) 検証・分析

(1)における①～⑤の取組の視点からの学習・指導方法の改善において、どのような成果が得られたのか次の①～⑤の調査の実施及び結果分析やその相関をもとに、検証していく。また、教員を抽出し、どのような指導方法が児童生徒の学力に影響を与えていくのか分析していく。

①埼玉県学力・学習状況調査結果の分析(IRTによる学力の伸びを分析する)

(対象:小4～中3、4月実施、7～8月分析)

- ・アクティブ・ラーニング拠点校7校と協力校11校における児童生徒の学力の伸びの把握と比較
- ・質問紙調査結果との相関分析(アクティブ・ラーニングに関する質問項目との相関)

②全国学力・学習状況調査結果の分析(対象:小6・中3、4月実施、8～9月分析)

- ・アクティブ・ラーニング拠点校7校と協力校11校における児童生徒の学力の把握と比較

・質問紙調査結果との相関分析

③戸田市「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」調査結果の分析（対象小4～中3、7月実施、7～8月分析）

・昨年度との比較による分析、同一集団（児童生徒）の変化の把握

④戸田市学力調査の実施及び調査結果の分析（対象：小4～中2、1月実施、2月分析）

・アクティブ・ラーニング拠点校7校と協力校11校における児童生徒の学力の把握と比較

・埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査との比較

⑤PISA型学力調査問題の実施及び調査結果の分析（対象：拠点中学校 2校）

・ベネッセホールディングスとの共同研究により、PISA型学力調査問題の開発及び実施を行う。

・市内中学校のうち、拠点校について本調査を実施し、自由記述形式の出題により、方法や考え方を説明することや、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかについて評価する。

・国語Aは拠点校で、全国・県平均よりも高い。

・準拠点校では、国語・算数AB共に全国・県平均よりも高い。

②児童質問紙項目と関連付けた考察

・「学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思うか」や、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」では、拠点校平均が、全国・県平均よりも高かった。

<中学校 拠点校2校について>

①平均正答率について

・国語・数学共に全国・県平均よりも2～3ポイント高かった。特に、数学Bでは、全国平均よりも4.4ポイント高い。

・拠点校2校の平均は、準拠点校4校の平均よりもすべての項目において高かった。

②生徒質問紙項目と関連付けた考察

・「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」「生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目において、拠点校は埼玉県・全国平均よりもすべて高かった。

・中学校では、主体的・対話的・深い学び（3つ全てにおいて）に関わる生徒の自己評価が高いほど、学力が高いことが明らかとなった。

<その他>

・中学校になるにつれて、アクティブ・ラーニングに関わる自己評価が低くなる傾向がある。しかし（反対に中学校になり）自己評価が高いほど、国語・数学の平均正答率は高くなる。中学校でのアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善はより重要であると考えられる。

(3) 戸田市「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」調査結果の分析について

①考察（小学校）

・「授業の内容がよくわかるか」については、第6学年で市内全体の平均を超えるようになった。

・「授業に積極的に取り組んでいますか。」については、第6学年で国語・算数ともに、『進んで取り組んでいる』の回答が増えた。

・理解できているかに関する項目も、積極的に取り組んでいるかの項目も9割近くが肯定的な回答をしている一方で、「授業が楽しい」と回答している児童は、この2年間約7割に留まっている。 今後は、この点についてALの視点から授業改善を行っていくことが重要である。

②考察（中学校）

・平成29年には、ほぼ全ての項目において、戸田市内の中学校平均値を上まわることができた。特に、授業に積極的に取り組んでいたかの問いでは、拠点校の9割の生徒が肯定的な回答を示している。1年間の授業改善からの効果が見えてきている。

・小学校で課題となっている「授業が楽しいですか」については、引き続き課題となっている。今後は、小中共に「授業づくりの視点」として重視して取り組むことが大切である。

・中学校2年生時の評価が低いことから、小学6年から中学1年への学習内容と共に、学習方法（学び方のつながり）が大事である。

2 実践研究の成果とその分析について

(1) 埼玉県学力・学習状況調査の結果からみる拠点校の学習指導について

<小学校 拠点校5校について>

①学力を伸ばした子・学力の伸びについて

・小学校5年（4→5年）の算数科、小学校6年（5→6年）の国語科について、準拠点校よりも学力を伸ばした児童生徒の割合が小5算数約4.1ポイント、小6国語約0.9ポイント高かった。

・H29小学校6年（5→6年）の国語科については、伸びの平均値も高かった。

②児童調査項目と関連付けた考察

・「学力が伸びた児童の割合」や「学力の伸びの平均」と相関関係があるアンケート項目はなかった。しかし、グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること（小5国語）、自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと（小6算数）は他教科の学びが教科横断的に関係する可能性があることを示していると考えられる。

<中学校 拠点校2校について>

①学力を伸ばした子・学力の伸びについて

・中学校2年（1→2年）の国語・数学について、伸ばしている生徒の割合が2～3ポイントほど高かった。中学校3年（2→3年）の数学科でも4.5ポイントほど高かった。この学年は、伸びの平均も高かった。

②生徒調査項目と関連付けた考察

・自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと、授業の始めには気が付かなかった疑問が授業の終わりに頭にうかんできたことについては、数学で伸ばしている生徒の割合との相関関係が見られた。

<その他>

・「自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと」と学力の伸びとの相関関係が幾つかの項目で見られている。これは、特に「主体的な学び」「深い学び」と深い関わりが見られる。ただし、戸田市では、埼玉県平均と比較しても、児童生徒のアンケート項目数値が高くなかった。今後は、各学校で授業改善の視点の一つに位置付けてほしい。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果からみる拠点校の学習指導について

<小学校 拠点校5校について>

①平均正答率について

3 実践研究成果の活用方策について

(1) A Lルーブリックの作成について

「AL6つのチェックポイント」を基に協議し、指導用ルーブリック、自己評価用ルーブリック、資質能力ルーブリックを作成した。なお、本ルーブリックは、今後も授業研究会での学習・指導の実際をもって、見直し・改善を図ることが望ましい。また、本市が行っている教員質問紙調査については、今後指導用ルーブリックの視点から結果を子供たちの学力の伸びと関連付け、更にエビデンスを高めたルーブリックとすることが望ましいと考える。

- 指導用ルーブリック
 - ・アクティブ・ラーニングの視点からの指導方法を考える際、教師（教師同士）が自己（他己）評価できるもの
- 自己評価用ルーブリック
 - ・アクティブ・ラーニングの視点からの（子供たちの）学習を考える際、子供たちが自己の学びを自己評価できるもの
- 資質・能力ルーブリック
 - ・ALを通して、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力

	使用者	使用時	方法	目的
指導用ルーブリック	教師	授業前・後	・チェック項目を基に授業づくり授業分析（振り返る）する。	・ALの視点からの指導の実現
自己評価用ルーブリック	児童生徒	（主に）授業中・後	・チェック項目を基に自己の学びを振り返る。	・学習態度の見直し ・指導の評価（※教師）
資質・能力ルーブリック	教師	授業前	・項目を基に、カリキュラムマネジメントを行う。 ・本時の目標の明確化	・育成すべき資質・能力の明確化

(2) ルーブリックの活用について

- ①（日々の授業において）教員・児童生徒の学習・指導方法を評価し、アクティブ・ラーニングの視点からの授業の充実を目指すと共に、育成すべき資質・能力を育むことを目指す。
 - ②校内授業研究会の際に、ルーブリックを基にした授業評価をし、更なる授業改善を推進する。
 - ③資質・能力ルーブリックを活用・改善することで、身に付けさせたい資質・能力を明確化していく。
- ※上記①～③については、実践拠点校・準拠点校に問わず、活用が可能であると考えている。

(3) 他の地域・学校における実践研究成果の活用について

本ルーブリックについては、戸田市内小・中学校における実践的な授業改善から不可欠な要素を抽出したものである。しかし、他の地域・学校でも同様の学習・指導は不可欠であるものが多い。本ルーブリックそのものを活用することも十分に可能であると考えられるが、本ルーブリックを基に更に各自自治体等で見直し・改善を行っていくことも可能である。その結果を共有化することで、本自治体のルーブリックの信頼性とも更に高まる可能性も考えられる。



平成28・29年度 文部科学省委託事業

「アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

～産官学民の知のリソースの活用～

人工知能では代替できない能力の育成

汎用的スキルの育成

非認知スキルの育成

戸田市版「アクティブ・ラーニング ルーブリック」の開発
(育てたい資質・能力ルーブリック × 指導用ルーブリック × 児童生徒自己評価用ルーブリック)

ICT機器を活用した教育の推進
(Google, リクルート、ベネッセ、凸版との連携)



主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニング)
による不断の授業改善

協調学習の推進
(CoREFとの連携)



効果的な指導方法を明らかにする
授業研究会(Hiyabulとの連携)



アクティブ・ラーニング研究員授業研究

(ベネッセとの連携)



戸田市AL実践協議会
有識者委員による
本事業研究への指導助言

- ＜委員＞
- ・学識経験者
- ・民間教育企業関係者
- ・県教育委員会関係者
- ・市内小・中学校長

埼玉県学力・学習状況調査 (IRT) の活用
市内教員質問紙調査結果の活用



エビデンスベースによる授業改善

- ・全国学力・学習状況調査の活用
- ・戸田市「授業が分かる」調査の活用

学習到達度テスト(国・算・数)の実施
＜全小・中学校＞ (ベネッセとの連携)

中学校教科型テストGPSの実施
＜戸田中・笹目中＞ (ベネッセとの連携)



研究拠点校 (戸一小、戸二小、喜沢小、笹目東小、戸田中、笹目中、笹目中)

アクティブ・ラーニング 6つのチェックポイント

アクティブ・ラーニングの視点から、PDCAサイクルに基づき、**不断の授業改善**を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を評価する際の基本的な6項目をチェックポイントとして示した。授業研究の視点として積極的に活用していただきたい。

主体的な学び

対話的な学び

深く学ぶ

1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。

- 本時の目標は明確であるか。「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」
- 目標がどの程度実現しているかを測る適切な評価規準が設定されているか。
- 意欲を高める導入（課題・資料提示の工夫 等）がなされているか。

2 子供が学習の見通しをもつことができていたか。

- 本時のめあてや学習課題を提示し、児童生徒が見通しをもてるようにしているか。
- 適切な学習問題（課題）があり、見通しをもって解決することができているか。
- 問題（課題）解決的な学習過程が設定され、活動に適切な時間が配分されているか。

3 子供が自分の考えを表現することができていたか。

- 一人一人の具体的な学習活動が行われているか（時間や場の設定）。
- 調べる、考える、表現する等の活動が目標の実現につながっているか。
- 相手意識や目的意識、条件などを踏まえて表現しているか。

4 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。

- 目標の実現に適した学習形態（個人、ペア、グループ、全体）になっているか。
- 目標の実現につながる言語活動となっているか。
- 対話を通して、自分の考えを深めたり、集団としての考えを高めたりしていたか。

5 子供が「分かったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。

- 児童生徒一人一人の学習状況を把握し、適切に評価しているか。
- 評価に基づき、個に応じた指導が適切に行われているか（手立ての準備）。
- 児童生徒が、自らの学びの変容を見取り、自分の学びを自覚することができているか。

6 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方や考え方」を働かせていたか。

- 目標の実現に適した教材・教具・ICT機器等を準備し、活用しているか。
- 成果を振り返り、次の学びにつなげているか。
- 課題に正対したまとめになっているか。
- 児童生徒が自らの学びや変容を説明したり、評価したりすることができているか。

補足資料 3

アクティブ・ラーニング授業分析

議論評価サービスシステムを活用した授業分析

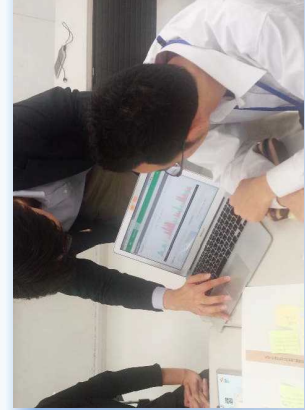
（株式会社ハイラブルとの共同研究）

芦原小学校での授業研究会（**教員による協議**）に導入

戸田第一小学校での授業研究会（**授業**）に導入

<3大メリット>

- グループでの学び合いを録音し、**再生・保存**できる。
- 協議会の際、**音声再現を基に発話分析・指導方法**の吟味ができる。
- 子供の発容に「**何が起因したのか**」について分析できる。



第1回 アクティブラーニング研究員 授業研究会の振り返り(A.L. 6つのチェックポイントを基に)

<p>1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。</p> <p>○本時の内容は面白そう。子供の意欲・興味が弾く内容である。 ○友達同士の意見を見合わせることで、同じ土台から本時が始められた。(ムーブノートの活用)</p> <p>▲課題に興味を持たせることができていたか? ▲課題が生徒たちにとって必要感や関心度などが十分でなく、(自己の)課題に対しての意識が薄かったのでは? →生徒とのやりとりの中から課題を明確にしていける必要があったのでは。 →既習とのつながりの中から、本時の課題の必要感を高めていく。 ▲目標が把握できていなかったのでは? →既習の学習とのつながりや必要感をキーワードにするとともに、より明確化するといふ。 ▲導入でまとめた生徒の考えをエキスパート活動に活用できるとよい。</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって取り組むようにするためには、『必要感』が重要。そのためには、「既習とのつながり」や「児童の言葉」を基に課題を設定していくことが重要である。 ・子供の課題に対する興味を高めるためには、ICT機器を使うことは有効であろう。
<p>2 子供が学習の見通しをもつことができていたか。</p> <p>○見通しをもつことはできていた。(が、時間配分としては課題が残る。) ○課題や話し合うときのポイントを、モニターで掲示し、生徒が見て分かるようにしていた。</p> <p>▲板書に1時間の思考が残るような展開が望ましい。(それが学習活動の見通しを持つことへつながる) →板書に課題・問題を残しておくといふのでは? モニターだけでは消えてしまうので、生徒にとって振り返ることができるものになってしまふ。</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書には1時間の流れが見えるよう、問題、めあて、課題等が書かれている(貼ってある)といふ。
<p>3 子供が自分の考えを表現することができていたか。</p> <p>○普段からの指導の成果が見られた。(普段から協調学習を行っているところが素晴らしい。) ○個人の考えをムーブノートに書き、それを拍手で評価し合う。これは、子供同士が表現を評価し合えるので、とてもよい。</p> <p>▲生徒が資料からノートに書き写すだけという場面が多く見られた。 →答えは見つけ出す、あるいは必要に応じて自分で考える・調べるような資料提示になるとよいのではないか。 ▲自分の考えが出せていない。</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習活動が充実するためには、適切な資料提示が不可欠である。 ・自分の考えをまとめるには、時間・適切な支援も必要であろう。
<p>4 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。</p> <p>▲シグソー活動での考えの広がりが深まりがあまり見られなかった。 →エキスパート活動での活動時間が十分でなかったため、対応策を考えていく。(自力解決時間の充実、自己の考えを深める時間をもう少し充実させること) ▲全体発表の場が少なかった。 →ホワイトボード等を活用し、全体で共有できればよかった。 ▲生徒の発言量が少なかった。</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの形態を整えただけでは、「対話的な学び」は成立しない。 ・教師の方で、考えを交流させる手立てが必要。(思考ツール? ホワイトボード?の活用)
<p>5 子供が「分かったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感して</p> <p>○授業の中で、課題を再び振り返ったところがあった。(ねらいの再確認) ○ねらいとまめがおさえられた授業であった。</p> <p>▲授業の課題やまめ(まめではないかもしれない?)が教師から提示されていた。 →子供の言葉を大切にし、子供の言葉をもとにまめとていくとさらによいのではないか。</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、ねらいや課題を必要に応じて振り返ることは有効。 ・自分の言葉でアウトプットする場面が必要か。
<p>6 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方や考え方」を働かせていたか</p> <p>○ムーブノートの記述を振り返り確認することで、深い学びにつながったのではないか。(時間は足りなかったが)</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における「見方・考え方」の再確認が必要。 ・本時の学びを振り返ったことから、さらに広げる、深めることが重要であるのではないか。

授業者による授業の振り返り

今回の授業では、ムーブノートを使って生徒全員の意見を共有することを試みました。多くの情報の中から、必要なだけを取り出す練習になったのではないかと思います。また、**深く考えるためのポイントを提示し、これを様々な授業で行うことで深く考えるポイントを習慣化にできないか**と考えました。今後も、**考える活動の中で深く考えるためのコツの提示**を続けていこうつもりです。

笹目中学校内の事後の研究協議では、「**生徒は対面がなければ授業に主体的に取り組もうとしないはずだ。**」という意見が出ました。そこで今回の授業を振り返ると、**生徒が「面白かった」や「自分のためになった」などの対価を得られたと感じる場面が少なかったように感じました。生徒が話し合う意義を感じられるような工夫が必要でした。**

また、エキスパート活動で生徒がエキスパート資料をただ書き写しているだけだったことも課題です。エキスパート資料は「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「火山の大噴火」という言葉のみにするなどシンプルにして、生徒が課題について考える時間を十分にとらなければならなかったと思います。

アクティブ・ラーニング 指導用ルーブリック(案) 補足資料:5

アクティブ・ラーニングの視点から、P.D.C.Aサイクルに基づき、**不断の授業改善**を図っていくことが、児童生徒の学力向上につながる。そこで、授業を自己・他己評価する際の基本的な5項目を**指導用ルーブリック**として示した。

<p>1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】</p> <p><input type="checkbox"/> 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できていたか。 <input type="checkbox"/> 本時の目標が達成できているか評価規準が設定できていたか。 <input type="checkbox"/> 子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)</p>
<p>2 子供が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】</p> <p><input type="checkbox"/> 本時の課題を正しく伝えることができていたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現することができるように、(主につまづいている子供たちへの)支援方法を準備し、実行できていたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができていたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動は、目標の達成につながっているか。</p>
<p>3 子供が友達の発言を受け止めたり、資料を読んだりすることを通して、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】</p> <p><input type="checkbox"/> 子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できていたか。 <input type="checkbox"/> 子供たちの考えを広げ深められるよう、教具(タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等)を工夫し用いていたか。 <input type="checkbox"/> 子供たちの考えを板書(ホワイトボード等で示すことも含む)できていたか。</p>
<p>4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】</p> <p><input type="checkbox"/> 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。 <input type="checkbox"/> 子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。 <input type="checkbox"/> 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。</p>
<p>5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】</p> <p><input type="checkbox"/> 評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿容を評価することができたか。 <input type="checkbox"/> 評価するための方法や場面を設定することができていたか。 <input type="checkbox"/> 子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。</p>

○**本ルーブリック**は、平成28・29年度戸田市アクティブ・ラーニング研究員による**授業研究会の協議**を基に作成しました。(協議については「平成29年度指導の重点・主な施策『アクティブ・ラーニング6つのチェックポイント』」を基に実施)

○**本ルーブリック**は、「平成28・29年度文科省委託事業『教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究』」報告書内に示されている。

○上記は『指導用ルーブリック』の**レベル2の内容**である。

レベル		＜教師用＞ 学習指導ルーブリック	
学習・指導過程 (授業をみる視点)		レベル1	レベル2
<p>子供目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。</p> <p>1. 【主な見逃しポイント】 ・子供の目標が達成できているか評価できているか評価できるような評価基準を設定できた。 ・本朝の目標が達成できた。 ・本朝の目標が達成できているか評価できているか評価できるような評価基準を設定できた。 ・子供の学習活動を振り返られるような振り返り場面を設定することができた。 (学習場面や課題の工夫、振り返りの工夫など)</p> <p>2. 子供が自分の考えを表現することに関して、適切な時間・場の設定ができた。</p> <p>3. 子供の意見を受け止め、自分の考えと対比したか。</p> <p>4. 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【見逃しポイント】</p> <p>5. 子供の意見や理由を要請していたか。 【見逃しポイント】</p>		<p>・授業計画に基づき、適切な目標（見方・能力の三つの柱に基づき「何が出来るようになるか」）が設定された。 ・本朝の目標が達成できているか評価できているか評価できるような評価基準を設定できた。 ・子供の学習活動を振り返られるような振り返り場面を設定することができた。 (学習場面や課題の工夫、振り返りの工夫など)</p> <p>・本朝の目標を明確に正しく伝えることができた。 ・自分の考えを表現することができるよう、（主に「まとまっている子供たちへの」支援方法を準備していた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるよう、適切な時間・場の設定・ワークシート等の準備ができた。 ・学習活動が、目的の達成につながっていた。</p> <p>・子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）を設定できた。 ・子供たちの考えを広げ深められるよう、教師（タブレットP.C・ホワイトボード・ワークシート、身体動作）を工夫し利用していた。 ・子供たちの考えを新語（ホワイトボード等で示すことも含む）でできた。 ・子供たちが本朝に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であった。 ・子供たちに「見方・考え方」を働かせることが出来るよう、学習活動を設定することができた。 ・評価規準・評価計画に基づき、本朝の子供たちの意見を評価することができた。 ・評価するための方法や場面を設定することができた。 ・子供たちが本朝の学習を振り返ることが出来るよう、場面を設定できた。</p>	<p>・授業計画に基づき、適切な目標（見方・能力の三つの柱に基づき「何が出来るようになるか」）が設定された。 ・本朝の目標が達成できているか評価できているか評価できるような評価基準を設定できた。 ・子供の学習活動を振り返られるような振り返り場面を設定することができた。 (学習場面や課題の工夫、振り返りの工夫など)</p> <p>・本朝の目標を明確に正しく伝えることができた。 ・自分の考えを表現することができるよう、（主に「まとまっている子供たちへの」支援方法を準備していた。 ・子供たちが自分の考えを表現することができるよう、適切な時間・場の設定・ワークシート等の準備ができた。 ・学習活動が、目的の達成につながっていた。</p> <p>・子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）を設定できた。 ・子供たちの考えを広げ深められるよう、教師（タブレットP.C・ホワイトボード・ワークシート、身体動作）を工夫し利用していた。 ・子供たちの考えを新語（ホワイトボード等で示すことも含む）でできた。 ・子供たちが本朝に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であった。 ・子供たちに「見方・考え方」を働かせることが出来るよう、学習活動を設定することができた。 ・評価規準・評価計画に基づき、本朝の子供たちの意見を評価することができた。 ・評価するための方法や場面を設定することができた。 ・子供たちが本朝の学習を振り返ることが出来るよう、場面を設定できた。</p>
<p>～自己評価ルーブリックの留意事項～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の学習指導ルーブリックについて、レベル2は、児童3人の授業観の観点、主に議題に関係されている。目安としては、レベル2に当てはまる内容は、多くの授業で達成が期待される内容事項である。 ・まずは、レベル1の内容を達成していく。また、レベル2に当てはまる内容は、レベル3を目指していく。 			

レベル		＜児童生徒用＞ 自己評価用ルーブリック	
学習・指導過程 (授業をみる視点)		レベル1 (概ね小1～3)	レベル2 (概ね小4～6)
<p>子供目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。</p> <p>1. 【主な見逃しポイント】 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 【注】「自分の考え」の語彙</p> <p>2. 子供が自分の考えを表現することができていたか。</p> <p>3. 子供が友達との意見を受け止め、自分の意見と比べていたか。</p> <p>4. 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【見逃しポイント】</p> <p>5. 子供の意見や理由を要請していたか。 【見逃しポイント】</p>		<p>・学習の目標（めあて）が分かった。 ・楽しく学習に取り組むことができた。</p> <p>・今日の課題（議題）について、聞かされた内容を理解することができた。 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、自分の考えを準備することができた。</p> <p>・これまでの自分、友達の考えと比べて考えることができた。 ・どのように考えたのか、友達に説明することができた。 ・どのように考えたいか、やってみようとした。</p> <p>・何を学習したのかを説明できる。 ・今日の学習でわかったこと、できたことが表現できる（シートに書く、身体動作させる等）。</p>	<p>・学習の目標（めあて）が分かった。 ・楽しく学習に取り組むことができた。</p> <p>・今日の課題（議題）について、最後までしっかりと聞かされた内容を理解することができた。 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、自分の考えを準備することができた。</p> <p>・これまでの自分、友達の考えと比べて考えることができた。 ・どのように考えたのか、友達に説明することができた。 ・どのように考えたいか、やってみようとした。</p> <p>・何を学習したのかを説明できる。 ・今日の学習でわかったこと、できたことを自分の言葉で説明できる。</p>
<p>レベル3</p>		<p>・今日の課題（議題）について、最後までしっかりと聞かされた内容を理解することができた。 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、自分の考えを準備することができた。</p> <p>・これまでの自分、友達の考えと比べて考えることができた。 ・どのように考えたのか、友達に説明することができた。 ・どのように考えたいか、やってみようとした。</p> <p>・何を学習したのかを説明できる。 ・今日の学習でわかったこと、できたことを自分の言葉で説明できる。</p>	<p>・今日の課題（議題）について、最後までしっかりと聞かされた内容を理解することができた。 ・自分の考えを（自ら）表現する（書く・話す・作る・動く・歌う等）ことができた。 ・友達の意見を聞いて、自分の考えと比べることができた。 ・友達と一緒に話し合ったり、考えたりすることで、自分の考えを準備することができた。</p> <p>・これまでの自分、友達の考えと比べて考えることができた。 ・どのように考えたのか、友達に説明することができた。 ・どのように考えたいか、やってみようとした。</p> <p>・何を学習したのかを説明できる。 ・今日の学習でわかったこと、できたことを自分の言葉で説明できる。</p>

～自己評価ルーブリックの留意事項～

- ・概ね、レベル1 (小1～3)、レベル2 (小4～6)、レベル3 (中1～3) のように目標となる事を設定している。
- ・各学校の実態や子供たちの姿を鑑み、教科等に依りた配慮を要して、使用する事が望ましい。
- ・1単位時間ごとの振り返り記入が必ず行うことが難しい場合は、可能な範囲で自己評価が出来る場面を設定できるようにする。

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

Table with 4 columns: 番号 (11), 都道府県名 (戸田市), 市町村名 (戸田市)

Table with 2 columns: 拠点校名 (戸田市立戸田第一小学校)

1 実践研究の具体的な内容
(1) 校内研究と新しい学びへの対応
① 校内の研究主題・仮説と概要

Table with 2 columns: [研究主題] (「学ぶ楽しさにあふれ、一人一人の確かな学びを実現する授業づくり」～結びつきを通して～), [仮説] (生活・友達・既習の3つの結びつきを実感できる授業を展開することで、児童は学習の楽しさを見出し、主体的・協働的な学びが実現するだろう。)

② 概要
昨年度まで研究してきた内容(算数科)を基礎に、考え方を他教科に広げ、「戸田市21世紀型スキル育成プログラム」と関連させる。

Table with 2 columns: 戸田第一小学校の考え方 (生活との結びつき: 導入・学習後, 既習との結びつき: 導入・自力解決・練り上げ, 友達との結びつき: 練り上げ・まとめ), 戸田市21世紀型スキル育成プログラム (+ 関連) (非認知スキルの育成, 21世紀型スキルの育成, 汎用的スキルの育成)

③ 実施教科
・平成28年度末は国語、社会、算数、理科で計画。
・平成29年度当初は生活、道徳を追加計画し、年度の途中に体育、総合的な学習の時間も追加実施。

④ 新しい学びの取り入れる研究の実施
・アクティブ・ラーニングを促す3つの要素(A 学習環境、B 授業展開、C 指導上の工夫・言語活動の充実)からの教材の工夫。
・児童の実態に合わせた資料提示と学力低層の児童でも課題解決できる工夫。
・児童一人一人の主体的な参加を促すツールの工夫。(思考ツール、ICT活用等)
・新しい学び、新しい学習指導要領等への対応。(道徳、プログラミング教育等)

(2) 保護者・地域との協働(開かれた学校)
・コミュニティ・スクール化に向けた準備。(平成30年4月全面实施)
・学校評議員会、学校応援団との連携強化。
・学校HP、Facebook等での発信。
・PTAとの連携。(新しい学びに対応する教材、教具の購入)

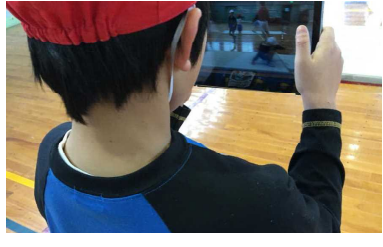

Main research plan table with columns: 目的・活動 (Learning Objectives/Activities), 内容 (Content), 方法 (Methods), 評価 (Evaluation), 留意点 (Notes). Rows include: 主体的活動(好奇心), 主体的活動(目標をもつ), 主体的活動(挑戦), 自己理解(主体性・自立), 文化理解・社会参画, 学習, コミュニケーション力, 発問, 問題発見・問題認識, 推論, 知識・技能.

各教科等で身に付けるべき資質・能力(知識・技能について)





なお、上記の戸田第一小学校アクティブ・ラーニング実践研究カリキュラムワーキンググループ及びコンベンション・スタディ・ツアーは、市内研究員の就業状況等を基に開催しました。

2 実践研究の成果とその分析
 (1) 校内研究と新しい学びへの対応

<p>①国語(6年)</p>  <p>実際に保護者説明会用の資料として使用されるパンフレット作りを行った。相手意識、目的意識が明確で必然性ある学習とすることで話し合いが深まった。</p>	<p>②社会(4年)</p>  <p>郷土資料博物館学芸員の招聘、思考ツール(フィッシュボーン図)の利用、自分の考えを可視化、時間軸を意識することで学びの必然性ができ、深い学びにつながった。</p>
<p>③算数(2年・5年・特別支援学級)</p>  <p>平成28年度まで積み重ねた算数科の研究を基礎に、図、ゲームを取り入れたり、子供たちが体感・体験し、身近な生活から導入し、深く考える授業展開を工夫改善した。</p>	<p>④理科(5年)</p>  <p>大型テレビに顕微鏡に見えるものを映し、タブレットPC内のソフト(オクリンク)を使用し、友達のを共有し、図をみながら対話を図り、深い学びとなった。</p>
<p>⑤生活(1年)</p>  <p>教師自作の「チョウ」の体にした思考ツールで自分や友達のを可視化することで、1年生も友達との対話を通して学びを深めることができた。</p>	<p>⑥道徳(3年)</p>  <p>「座標軸」を使い、自分の気持ちを可視化することで、自分のこととしてとらえ、来年度実施の教科道徳「考え、議論する」ことを意識することができた。</p>

<p>⑦体育(3年・4年・5年)</p>  <p>PTA 寄贈の10台のタブレットPCを利用した体育授業が日常的に展開されている。動画の録画、スロー再生等で動きの確認をし、深い学びとなっている。</p>	<p>⑧プログラミング教育(2年・3年)</p>  <p>2年生ではアンプラグドプログラミング(ベネッセコーポレーション)、3年生ではのKOOV(ソニーグローバルエデュケーションズ)を利用し、プログラミング教育を先行実施した。</p>
--	--

(2) 保護者・地域との協働(開かれた学校) ※写真は戸田第一小学校 Facebook から引用

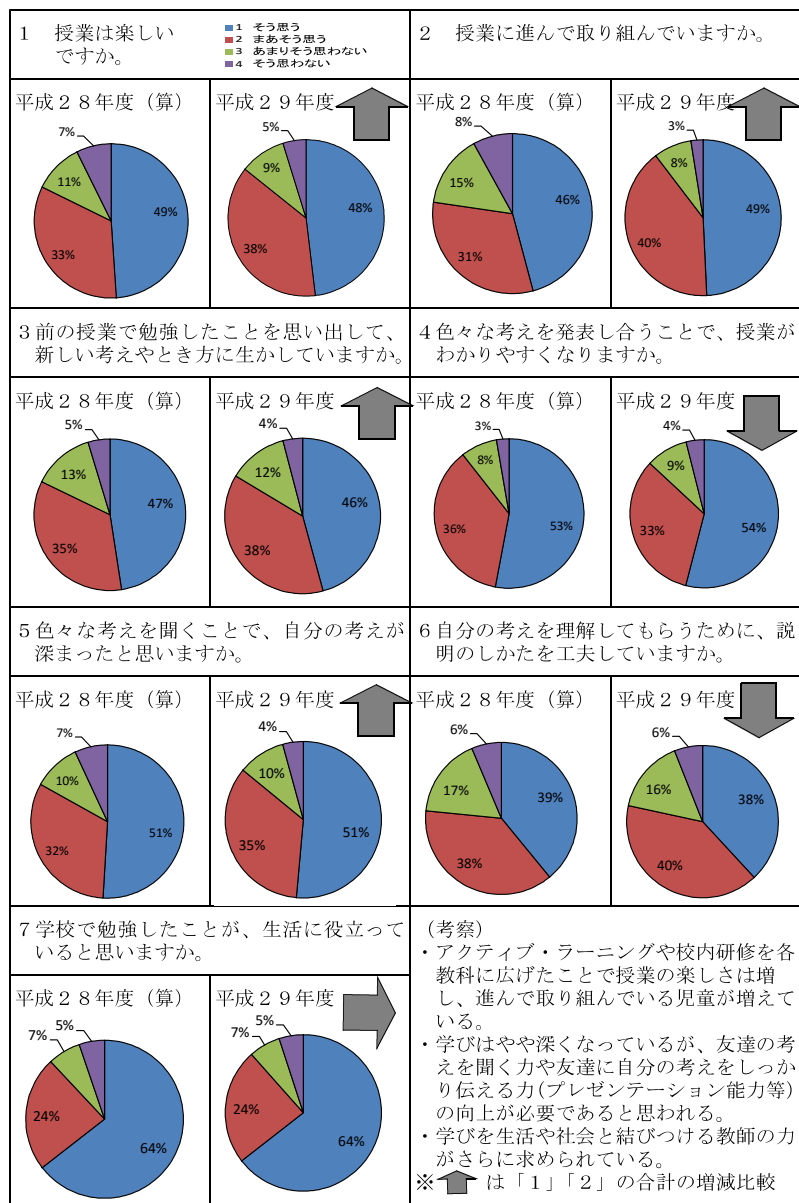
<p>①コミュニティ・スクール化に向けた準備</p>  <p>平成30年度実施に向け、目指す学校像、児童像の共有を図っている。現在、まだ準備・協議中であるが、平成30年度当初に開始する。</p>	<p>②学校評議員会、学校応援団の連携強化</p>  <p>学校応援団コーディネーターが調整し、様々な職業人17名と子供たちが交流した。学校評議員との連携も強化している。</p>
<p>③HP、Facebook等での授業公開</p>  <p>ウェブ上でも教育実践の公開を積極的に行い、新しい教育に向けて発信し、理解を求めている。</p>	<p>④新しい学びに対応する備品提供(PTA)</p>  <p>新しい学びに対応する備品の寄贈があった。タブレットPCや円形ホワイトボードは、深い学びへの一助となっている。</p>

(3) 成果の分析
 ①授業が分かる調査 (平成29年7月実施 4～6年 戸田市教育委員会 単位%)

	国	社	算	理	音	図	家	体	外
①授業の内容がよくわかりますか。	93	85	86	93	—	—	—	—	—
②授業が楽しいですか。	75	73	74	83	84	89	75	87	79
③授業に集中して取り組んでいますか。	91	87	88	90	91	93	83	90	85

(考察) 国語・理科は理解している割合が高い。主要4教科の「楽しい」割合が低い、進んで学習している割合が高い。「知的好奇心」や「わかった、できた喜び」を持たせることが「楽しい」と感じるさせる必要もある。魅力的な授業展開をしなくてはならない。

②本校の児童アンケート 平成28年度（算）と平成29年度（教科を広げる）の比較



(考察) 各種学力調査より
 学力・学習状況調査の分析により、本校「学力向上プラン」では、以下の課題を置き、重点取組を実施している。

課題	重点取組
①基礎・基本の確実な定着と活用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な学習内容の繰り返し指導 ・発達段階に応じた教科担任制、少人数指導 ・家庭学習の工夫、とだっこ学習クラブとの連携
②各教科等における言語活動の充実とアクティブ・ラーニングの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における発表や話し合いの充実 ・相手意識、目的意識を持った学習活動の充実 ・思考ツールやタブレット端末を用いた学び ・読書活動推進、リーディングスキルテスト分析
③課題解決の活動や体験活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題解決」「やってみる」活動の充実 ・めあてと振り返り活動の充実 ・学校応援団等、地域人材人財の活用

3 実践研究の成果の活用方策分析

実践研究成果をさらに活用して深化するために、PDCA により以下のように考える。

- ①量的な実態調査による学力と意識の把握、分析・考察
 - ・全国・県・市の学力学習状況調査分析 ・市「授業がわかり、できる割合調査」等
- ②質的な変容の把握・分析・考察
 - ・各教職員の意識調査(面接)・日常的な授業改善の深化(例外を作らない授業改善)
 - ・先進校視察研修、各種研修会への積極的参加 ・有識者による理論研修
 - ・地域との連携(コミュニティスクールでの目指す学校像共有、地域人材活用)
- ③日常的な授業改善の公開による市内・管内に啓発
 - ・Facebook 等 SNS の利用した日常的発信・学校公開、授業参観での授業改善の公開

(様式 2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえた
アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

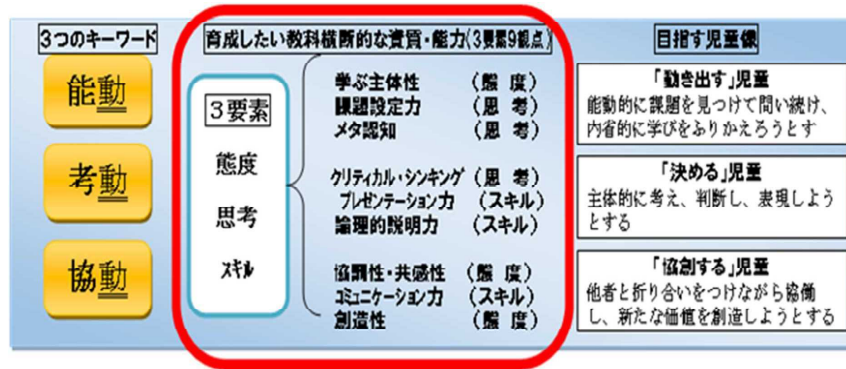
番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立戸田第二小学校
------	-------------

1 実践研究の具体的内容

(1) ねらいの明確化

・次期学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、産官学民の知のリソースを活用と連携、エビデンスベースの仮説検証を両輪として、21世紀型能力・非認知能力・汎用的能力を視点としたコンピテンシーベースの研究を全職員で進めてきた。育成したい資質・能力を「3要素9観点」に精選し、その手立てを多面的・多角的に検証してきた。



・「なにができるようになるか」という目の前の児童に育成したい「資質・能力」を明確にし、そのゴールのために、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てながら日々の授業改善を進め「主体的・対話的で深い学び」を実現する。

教員自らが動き、カリキュラムが動き、地域が動く。そして授業が動くという学びの創造に取り組んできた。

(2) 課題設定の工夫

- ・協調学習による授業づくりを研究・推進する。
- ・本校で作成した「戸二小 全授業を貫く学び合う授業スタイル」を全職員で周知・推進し、児童に必要感のある問題・課題の提示を工夫する授業を推進する。

(3) 教材作成の工夫

- ・言語活動の充実を図るため、本校で取り組んでいるフリートークの活動(昼のモジュールで継続的に取り組む話形の指導・練習)をさらに発展させ、双方向性の話し合い活動に繋がる言語活動の習熟を図ってきた。
- ・「戸二小全授業を貫く学び合う授業スタイル」を全職員で周知・推進し、児童の学び合いを生む授業展開の工夫(語りだそうとする児童の言葉や表情への注目・学び合いをコーディネートする教師の発問・児童の学び合いを生む場の設定)を研究・推進する。

(4) 児童の実態の把握

- ・目指す児童像を全職員で共有し、校内研修と関連づけて、指導計画(指導内容・指導形態等)の教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを行う。
- ・埼玉県立総合教育センター「授業力自己診断シート」を活用し、教師の客観的な児童分析の研究の一助とする。

(5) 児童の変容の把握(評価)

- ・「戸二小 全授業を貫く学び合う授業スタイル」を全職員で周知・推進し、児童に理解・思考の変容を感じ取らせる終末の工夫(児童に教えたいことほど教えない・本時の振り返りを自己評価させる等)の研究を推進する。
- ・児童同士においても双方向の対話をつくる。(傾聴力・コミュニケーション力・論理的説明力)
- ・思考ツールなどを用いて、児童の思考の可視化を心がける。(積極的なICTの活用)
- ・身に付けさせたい資質・能力をベースとしたルーブリックを指導と評価に活用していく。
- ・毎時間の振り返りを大切にす。(児童ができた・わかったが実感できるふりかえりの実践)
- ・非言語表現(表、グラフ、図など)の言語化の充実を図る。問われていることをイメージ化したり、読解力を高めるツールとしたりすることで、児童にとって思考のツールとなり、その必要感を児童自らが感じ取れる場の設定を設ける。
- ・授業中のつぶやき、うなずき、表情から児童の変容を読み取る。

…主体的な学びとは、自己との対話を重ねる学びでもある。そこで教師は、児童が「自分を感じながら学んでいるか」という認識をもつ必要がある。たくさん挙手して発言する児童だけが主体的なわけではなく、授業中の児童のつぶやき、うなずき、表情からも児童の変容を読み取る力を身に付ける。

2 実践研究の成果とその分析

(1) 各種学力調査等の結果

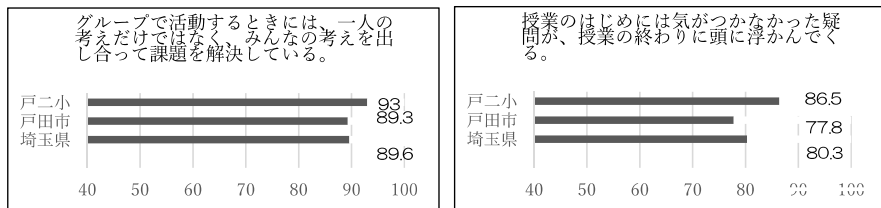
①全国学力・学習状況調査における本校児童の平均正答率（単位％）

(略)

②埼玉県学力・学習状況調査における本校児童の平均正答率（単位％）

(略)

③埼玉県学力・学習状況調査における本校児童の質問紙調査の結果（単位％）



④「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」調査の結果

授業に進んで取り組んでいますか（進んで・おおむね進んで取り組んでいる児童の割合）

H28	小4	小5	小6
国語	87	84	88
社会	90	86	91
算数	92	91	84
理科	93	88	84
音楽	95	89	86
図画工作	94	91	94
家庭		97	95
体育	93	96	94
外国語活動	90	87	84
合計	91.7	89.9	88.9

H29	小4	小5	小6
国語	86	90	88
社会	86	90	93
算数	88	87	89
理科	92	95	79
音楽	93	97	90
図画工作	95	94	90
家庭		95	96
体育	91	93	93
外国語活動	85	87	84
合計	89.5	92	89.1

(2) 成果の要因

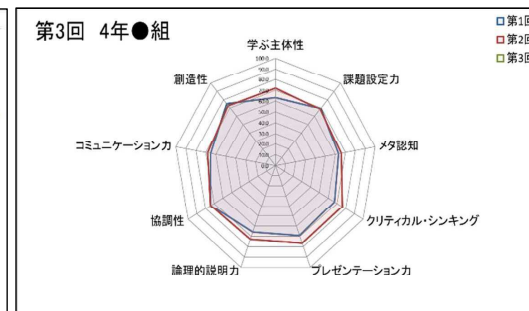
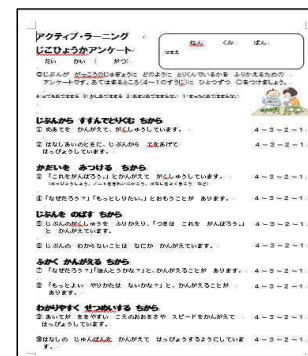
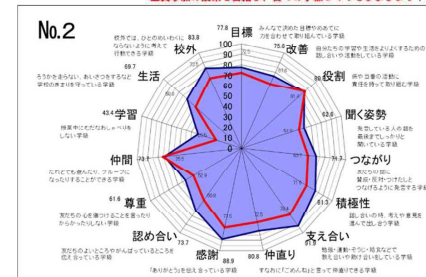
県の学力調査結果より、アクティブ・ラーニングの実施に関する質問紙では、多くの項目で顕著な伸びが見られた。上表③以外にも、授業ではみんなでいろいろな考えを発表する、自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできているなどの項目が挙げられる。その成果の要因として以下の取り組みが考えられる。

①授業改善（コーディネート発問）

児童の思考をつないだり、思考を深めたりする問いかけを意識して授業を行う。児童が主体的に授業に関わり、また深い学びを創っていく手立てとなった。

②学級経営（学級力向上プロジェクト）

授業と学級経営は、目指すべき資質・能力を育てる両輪の役割を担っている。児童が自身の学級の現状を分析し、改善に努めることを通して、授業にどのように関わり、どのような力が身につけてきたかを自己評価し、再度実践につなげる取り組みを行ってきた。その結果、授業における児童の主体的な態度が多く、学級で見られるようになった。（下図参照）



3 実践研究成果の活用方策

本校で推進している「戸二小 全授業を貫く学び合う授業スタイル」は、戸田市「アクティブ・ラーニングを促す授業づくり」の基礎資料として採用されている。その他にも昼のモジュールタイムで取り組んでいる「フリートーク」の活動などは、他校においても汎用できる実践が多々存在している。公開授業研究会（1/30実施）を通して、他校の教員に本校の実践がさらなる広がることを期待できる。また、校内での研究授業や指導者を招聘しての講演会について積極的に広報し、実践地域の教育の向上の先導役として努めていきたい。

(様式 2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえた
アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立喜沢小学校
------	-----------

1 実践研究の具体的内容

(1) 平成28年度埼玉県学力・学習状況調査における本校児童の平均正当率（単位％）

（略）

(2) 平成28年度全国学力・学習状況調査における本校児童の平均正当率（単位％）

この結果から、本校では埼玉県や全国の平均値から大きく下回ることはないが、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を大きな課題としている。その解決のため、2つの手立てを考え、指導方法の改善を目指した。

（略）

【喜沢スタイルの確立】

・学校全体での組織的な指導をめざし、また授業のUD化推進の一端として、「喜沢スタイル」（国語・社会・算数・理科・特別活動）を定め、授業の構成、ノート指導、板書の工夫などを行った。「喜沢スタイル」の徹底により、課題の明確化や授業の振り返りの充実を図った。また、AL推進部を中心に「喜沢スタイル」の中に、以下の視点を加えて研究を行った。

アクティブ・ラーニングを促す授業展開の実践研究

※アクティブ・ラーニングを促す3つの要素(A学習環境・B授業展開・C指導上の工夫、言語活動の充実)

【「学力向上 Kizawa プラン（全体計画）」の策定】

・本校の学力課題をもとに、「平成29年度学力向上 Kizawa プラン（全体計画）」を策定し、継続して指導を行った。

・学力向上における授業改善の視点として「授業規律」「授業のUD」「主体的・協働的な学び」「ICT機器の活用」の4つを課題とし、本研究においては「主体的・協働的な学び」「ICT機器の活用」を最重要課題として位置付けてた。尚、主体的・協働的な学びを視点とした授業改善においては、以下の5観点に基づき、国語、理科、特別活動、道徳を中心に研究を進めた。

(1) ねらいの明確化

- ・児童に身に付けさせたい資質・能力の明確化
- ・ALを行う目的・時間の明確化

⇒どの資質・能力を身に付けさせるために、どの場面で、どれくらいの時間、行うか

(2) 課題設定の工夫

- ・学力低位層の児童でも課題解決に参加できる課題の内容及び設定方法の研究
- ・多面的・多角的に考え、追究する授業を目指した課題の内容及び設定方法の研究

(3) 教材作成の工夫

- ・自らの考えを広げ深めるための思考ツールの研究

⇒課題内容 活動場面 に応じた思考ツールの選択

⇒対話的な学びの過程を実現する思考ツールの研究（ICT機器の活用）

(4) 児童の実態の把握

- ・課題に向き合う姿（課題追究への意欲・課題への理解度）の客観的把握方法の研究
- ・思考を可視化し、操作化・構造化を通して、思考の道筋を把握する方法の研究

(5) 児童の変容の把握（評価）

- ・思考の深化による変容の客観的把握方法の研究
- ⇒パフォーマンス評価 ポートフォリオ評価 自己評価（アンケート調査） 等

2 実践研究の成果とその分析

【喜沢スタイルの確立】

(1) アクティブ・ラーニングを促す授業展開の実践研究

- ・アクティブ・ラーニングを促す3つの要素(A授業作りの視点・B授業展開・C指導上の工夫、言語活動の充実)をおさえながら、授業実践を行った。

A 授業づくりの視点

- ・アクティブ・ラーニングを推進していくために、「平成29年度 指導の重点・主な施策」に明記されている6つのチェックポイントをもとに学習環境・授業作りを行った。

- 1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。
- 2 子供が学習の見通しをもつことができていたか。
- 3 子供が自分の考えを表現することができていたか。
- 4 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。
- 5 子供が「分かったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。
- 6 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方や考え方」を働かせていたか。

○成果

- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業をつくる際の目安にすることができた。項目ごとに具体例も示されていたため、手立てを考えたり、児童の評価や教師自身振り返りをしたりする際に有効であった。

●課題

- ・6つのチェックポイント、教科や単元によって指導が難しい場面が見られた。また、6つの視点は、1時間（45分）で指導しようとしたために、詰め込みすぎた授業展開になってしまい、全体での共通理解が不十分であった。今後は、6つのチェックポイントの見直し、具体的な内容を明確に明記し、改めて戸田市全体で周知していきたい。

B 授業展開

- ・今年度、アクティブ・ラーニング研究員として、第6学年で「道徳」の授業実践を行った。「ブランコ乗りとピエロ」の資料をもとに、寛容「2-(4)」の道徳的価値についてアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業展開に設定した。その際、戸田市で推進されている6つのチェックポイント(A学習環境に明記)をもとに授業作りを行った。

段階	学習活動・主な発問	ALの手立て	時間
導入	1 事前に行ったアンケート結果を知る。 ・広い心をもっていますか。 ・広い心とは何だと思えますか。	※ICTを活用し、道徳的価値を「広い心」という言葉に絞る。 ※児童の日常生活について、アンケートをとり数値化し、課題に迫り必要感を持たせる。 チェックポイント1	5分
展開	○資料について知る。 ・登場人物…ピエロ(主人公)・サム・大王アレキス・他の団員 条件・状況…大人気のサーカスの初日。大王アレキスを招くが、見物は1時間だけだった。サムは自分の出番の時間を守らず演技を続け、ピエロの演技時間を奪ってしまい、大王に演技を見てもらえなかった。		5分
	○範読を聞く。 ○話題を整理し、話し合いの課題を決める。 ○資料をもとに話し合う。 ・ピエロは、自分の演技を終えたサムに対しどのような気持ちだったのだろう。 ・他の団員は、サムに対してどんな思いだったのだろう。 ・サムは、どんな気持ちで演技していたのだろう。 ・自分自身が、その場の一員だったら、そんなサムをどう思うか。 (許す・許さない) ○課題について話し合う。 どうしてピエロは、サムを許すことができたのだろう。(サーカスの意味)	どうしてピエロは、サムを許すことができたのだろう。 ※自分の考えを表現させるため、人物関係図(ワークシート)を用意し、発表の整理をさせる。 ※人物関係図では、登場人物それぞれの立場の違いや考えを短時間で把握させ、価値理解につなげる。 チェックポイント2・3 ※多くの児童に考えを発表させ、その考えから新たな課題やそれぞれの意見を考えさせる。 チェックポイント4 ※「許す」「許さない」の2択で決断させ、それぞれの理由を話し合わせる。その際、教師が司会になるように、児童の意見を拾い、討論させていく。 チェックポイント6 ※視覚的に捉えやすくさせるために、紅白帽子を使う。友達の発表を聞いて意見を変える時は帽子の色を変えさせる。	30分
終末	○今までの自分を振り返る。 ・広い心とは、どんな心だろう。 ・今日の学習で学んだこと・気づいたことを書いてみよう。	※本時で話し合ったことをもとに、導入時に確認した道徳的価値について改めて振り返りをさせる。 ※自己の生き方にまで考えを広げられるように、言葉かけを行う。 チェックポイント5	5分

○成果

- ・人物関係図(ワークシート)のおかげで、全員が自分の考えを表現し、整理して発表することができた。
- ・児童同士の話し合いを活発にさせるために、紅白帽子を使っの2項対立の討論は視覚的に有効だった。自分の意見が変わった時に、紅白帽子を変更したため、自分の考えを聞いて友達の心境の変化があったこと

(様式2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立笹目東小学校
------	------------

1 実践研究の具体的内容

- (1) 県及び市教育委員会指導主事を招聘し、アクティブ・ラーニング及び協調学習の理論研修を行うとともに、国語、体育、総合的な学習の時間の3教科等において授業研究会を実施した。



- (2) 産官学民の連携の一環として、フューチャーインスティテュート株式会社 代表取締役 為田 裕行 様をお招きし、児童が学び合い、思考を深める授業創造のためのICT活用研修を実施した。



- (3) これまで取り組んできた本校独自の授業スタイルや指導方法等を、教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点から検証し、取組内容の充実、改善を図った。
・各教科等の単元ごとに、アクティブ・ラーニングの視点を指導計画に位置づける。
・アクティブ・ラーニングの授業を通じて、児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、全教員で共通理解を図る。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
全体	見通しをもち自ら取り組み、自分の学びを確認し、自信と意欲を高める子	自分の考えを多様な方法で表現・共有し、問題解決に向けて対話する子	各教科等で学んだことを、他の単元や学習・生活場面で想起し生かせる子
体育	運動の楽しさに気づき、自ら進んで運動に取り組む子	仲間と認め合い、励まし合いながら運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わう子	課題の解決に向けて、運動の行い方を工夫し、運動に取り組む子
国語	自ら考え、進んで関わろうとする子	対話を通して考えを伝え合い、課題の解決を目指す子	解決の過程を振り返り、次の学習や生活につなげる子
総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ、見通しをもって取り組み、よりよく課題の解決を図ろうとする子	情報を用いて伝え合い、異なる視点を出し合いながら、課題の解決に向けて話し合う子	解決の過程や解決を振り返り、新たな課題を見いだしたり、関連する世界へ広げたり、つなげたりする子

(4) 児童が課題解決に粘り強く取り組み、主体的に学び続ける授業創造の研究に取り組んだ。

- ・児童自らが課題意識をもてるように、自らの気付きや疑問点を活動の出発点にする。
- ・体験活動等を通して得られた気付きや疑問は、思考ツールを活用して課題設定する。
- ・学習環境、授業展開に応じ、アクティブ・ラーニングを促す教材開発を行う。
- ・学力低位層の児童も対話的・協働的な学びに参加できる教材を開発する。



(5) 児童の主体的・対話的・協働的な学習活動の評価・検証方法の研究に取り組んだ。

- ・児童の学びが能動的であり、かつ思考が活性化された活動であったかを把握する方法を研究する。
- ・双方向の対話や議論になっているか、話し合い活動の質を確認する。
- ・全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査、新体力テスト、校内検定等の各種調査を活用して、客観的、多面的に児童の変容を把握する。

2 実践研究の成果とその分析

(1) 埼玉県学力・学習状況調査における経年比較 ※ () は県平均との差 (略)

(2) 全国学力・学習状況調査における経年比較 ※ () は全国平均との差 (略)

(3) 戸田市「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」調査の経年変化

「授業に進んで取り組んでいますか。」という質問について、進んで取り組む、だいたい進んで取り組むと回答した児童の割合

※ () は28年度と同集団との差

(単位：%)	小4	小5	小6
国語	88	88 (+5)	89 (+6)
社会	87	82 (▲4)	93 (+20)
算数	93	91 (0)	86 (0)
理科	94	87 (▲7)	87 (+6)
音楽	83	91 (+7)	90 (▲3)
図画工作	96	93 (+1)	93 (▲1)
家庭		95	96 (▲1)
体育	90	91 (0)	93 (+2)
外国語活動	85	83 (+2)	79 (+7)

(4) 成果と分析

授業改善の取組とおして、教員が授業改善のポイントとして次の点について意識して授業づくりを行うことができるようになった。

- ・主体的な学びについて…児童の学習意欲を高めるためには、必要観のある課題提示・課題設定をすることが重要であること。
学習の見通しがもてるよう単元導入の工夫が重要であること。



- ・対話的な学びについて…一部の児童が活躍する授業から一人一人の児童に出番のある授業にするため、発達の段階に合わせた意図的なグルーピングや習熟度別のグルーピングを行うことが必要であること。
対話を促すためには、児童が「伝えたい」「相談したい」と思う学習活動の設定が重要であること。



- ・深い学びについて…児童の思考を揺さぶる発問及び指導展開を工夫することが重要であること。
児童が自分自身の学びの成果や変容を自覚することが深い学びにつながる。そのため、問題解決過程の振り返りと問題解決後の振り返りを行うことが重要であること。



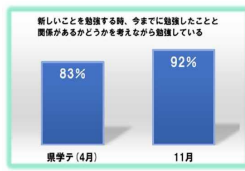
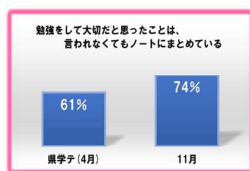
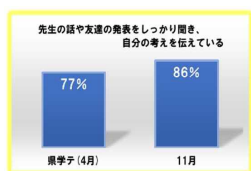
埼玉県学力・学習状況調査の結果について、4年生の国語は、全ての領域、観点とも県の平均を上回っており、平均では+2.3であった。4年生の算数は、「量と測定」が-1.8、「思考力」が-1.4、「知識理解」が-0.4と課題がある。平均では0.7であった。

5年生の国語は、全ての領域、観点とも県の平均を上回っており、「話すこと・聞くこと」は+6.1、「書くこと」は+10.1と強みがあり、平均では+1.2である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力を更に伸ばすことが重要である。5年生の算数は、「数と計算」が-0.5と課題がある。「量と測定」は+3.8、「思考力」

は+5.2と強みがあり、平均では+1である。「量と測定」、「思考力」を更に伸ばすことが重要である。経年変化を見ると、国語は、平均で-3.3。領域別では「言語」が-3.8、観点別では「知識理解技能」が-3.8であった。算数は、平均で-0.2であり、領域別では「量と測定」を4.4、観点別では「思考力」を4.1も伸ばした。一方、「数と計算」が-2.5、「知識理解」が-2.3と課題がある。

6年生の国語は、全ての領域、観点とも県の平均を下回っており、特に「話すこと・聞くこと」が-4.3、「話す聞く能力」が-5.2と大きな課題ある。平均では-2.3である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力をつけることが重要である。6年生の算数は、全ての領域、観点とも県の平均を下回っており、領域別では、「数と計算」が-6.1、「図形」が-4.1、観点別では「思考力」が-5.7、「知識理解」が-4.1と課題がある。平均では-4である。「数と計算」、「図形」、「思考力」をつけることが重要である。経年変化を見ると、国語は、平成27年度から28年度にかけて1.1も伸ばしたが、28年度から29年度にかけて2.4下げて平均で-2.4となっている。領域別では「話すこと・聞くこと」「書くこと」で-6.5、観点別では、「話す聞く能力」が-5.9、「書く能力」が-7.0であった。算数は、平成27年度から28年度にかけて-1、28年度から29年度にかけ-2.4と差を広げている。領域別をみると「数と計算」が-1.2→-2.5→-6.1、「図形」が2.7→0.1→-4.1と年々下げてきている。観点別では「思考」が-4.7→-1.9→-5.7と大きく下げている。

そして、質問紙調査の結果では、アクティブ・ラーニングに関係する質問において「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答する児童の割合が35%減少したことから、教員一人一人のアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善への意識が高まったと考えられる。また、28年度から取り組んでいる「①教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させる。」「②子供たちに思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりする。」という2点に留意した授業改善に取り組んだことにより、4年生、5年生において「主体的・対話的で深い学び」の実現に近づいていると考えられる。6年生については、下学年において、アクティブ・ラーニングと一斉指導のバランスが一斉指導よりに傾いていたと考えられ、主体的な学び方が十分に身に付いていなかったと考えられる。



また、体育に関しては「いろいろな運動が上手にできる」(前年比+12%)、「難しい運動でも練習するとできるようになる」(前年比+13%)と肯定的な回答の児童が約9割おり、できた喜びが自信につながったと考えられる。さらに、1年生の児童も振り返りで「友達と話し合いながら学習すると、いろいろな方法で問題を解決できてよかった」など、全体を通して「対話的な学び」にかかわる項目の多くに伸びがみられた。このことから、児童が学習を通して、伝え合うことよさを実感することができたと考えられる。



一方、実践を通して明らかとなった課題として、まず、児童の思考力・判断力・表現力を育成していくためには、1年生から発達の段階に応じて、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた学習活動に取り組み、考え判断し表現することへの抵抗感をなくし、考える楽しさ、表現する楽しさを味わわせる授業を行うことが必要である。

そのために、

- ・児童の学習に対する主体性を伸ばす教員の手立てを工夫していく。
 - ・学習したことを生活で生かしたり、友達の考えをつなげたりしながら深めていく。
- 今後は、一層の研修の充実を図り、本研究で得た成果を他教科等への指導にも生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していく。

3 実践研究成果の活用方策

- ・取組実践を研究紀要にまとめ、授業改善資料として全教員で共有する。
- ・研究成果を笹目中学校区の3校で共有し、9年間を見通した小中一貫教育での指導方法の工夫改善に生かしていく。
- ・家庭や地域と連携していくことで効果の高まりが期待できる取組は、学校日より、学校ホームページ、学校Facebook等で家庭・地域に発信していく。
- ・研究紀要を市内各小・中学校及び研究発表会に参加した教員に配布し、授業改善の参考資料として活用してもらう。

(様式2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえた
アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立芦原小学校
------	-----------

1 実践研究の具体的内容

(1) アクティブ・ラーニングを生み出す「芦原小授業スタイル」の実施

学力向上プランの中に「芦原小授業スタイル」を入れ、「課題の提示」「見通しをもたせる」「問題解決的な学習」「言語活動の充実」「学習形態・教材教具の工夫」「意見交流の手立て」「話し合いの手順」「まとめ」「振り返り」等の視点を明らかにした。

また、これまで研修を積み重ねてきた「算数」「学級活動」についても授業スタイルを確立させ、経験の浅い教員も安心して授業に臨めるようにした。さらに、算数と学級活動については、教員が児童役になり、授業の流れを確認する研修会を4月当初に設け、全員の共通理解の基で授業をスタートさせるなどの工夫をした。



4月5日(水)年度当初の授業スタイル研修



学級活動(1)の流れを全員で確認

(2) アクティブ・ラーニングを生み出す授業実践とグッズの活用

平成29年5月24日(水)の戸田市教育委員会・南部教育事務所教育支援担当学力向上推進担当学校訪問に向け、国語、社会、生活・総合的な学習の時間、図画工作、道徳においてアクティブ・ラーニングを促す手立てを講じた指導案作りと授業実践を行った。すべての学年、学級の指導案に「アクティブ・ラーニングを促す手立て」の項目を入れ、授業改善・授業実践を行った。

例えば、4年生の国語科「ふるやのもり」の学習では、自分の意見を伝える力

を身に付けさせ、様々な意見に触れ、考えを深め、心情や情景への想像を広げられるように協調学習(知識構成型ジグソー法)を取り入れた学習を行った。同じく5年生の社会科「低い土地の暮らし」や4年生の社会科「事故や事件から暮らしを守る」でも協調学習を実践し、問題解決的な授業展開を取り入れ、思考力を養う授業づくりを行った。また、5年生の書写や社会、1年生の図画工作においては、ミニホワイトボードや「円たくん」といったボードを用いた話し合い活動(ボードセッション)を行い、新たな気付きや課題、表現が生まれるように対話や少人数での話し合いを積極的に取り入れた授業を行った。

協調学習等の授業スタイルを積極的に取り入れたことやグッズの活用という年度当初からの新しい試みが、教科や学年を超え、1年間で職員間に広がり、定着してきた。これにより、アクティブ・ラーニングを生み出す授業づくりや授業実践につながっている。

さらに、「円たくん」は学校で11枚、ミニボードにおいては、各学年20枚ずつセットで購入し、さまざまな学習場面で使用できるようにし、教材環境の整備も行った。



1年図画工作「ひかりのくにのなかまたち」
「円たくん」を使った授業



5年書写「ほ先の動きと点画のつながり2」
ミニボードを使った授業

(3) 講師等を招いた研修会の実施

7月21日(金)

「AL等の学びの改革を求めて～ICTの効果的な利活用と実践～」
講師：フューチャーインスティテュート株式会社 為田裕行氏

7月21日(金)

「プログラミング学習の実践 ～スクラッチに挑戦～」
講師：戸田市学校経営アドバイザー 江添信城氏

8月21日(月)

「国語科研修の充実に向けて」
講師：元新座市立大和田小学校校長 児玉裕子氏
「新学習指導要領とICTの効果的な活用 ～理論と実践～」
講師：東京学芸大学教授 森本康彦氏

2 実践研究の成果とその分析

(1) 平成29年度全国・学力学習状況調査の結果から (略)

全国学力・学習状況調査の結果から、本校児童の特徴として、国語（活用力）における記述式の正答率の高さが顕著に表れている。

(例) 「目的や意図に応じて引用して書く」

全国 70.9% 芦原小学校 84.0%

(例) 「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめる」

全国 43.7% 芦原小学校 55.3%

(例) 「国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか」

※「全ての書く問題を最後まで解答しようと努力した」と答えた児童の割合
全国 77.2% 芦原小学校 85.3%

本校児童には、「書く」ことに抵抗のある児童が少なく、理由を明らかにして書くことや、記述式問題を得意としている児童が多い事に特徴が認められた。この結果は4～6年生が行った埼玉県学力・学習状況調査においても同様に見られた。

自分の考えや解き方をノートに書く活動を重視し、授業の最後に課題に対するまとめや授業感想、振り返り等を書く活動をどの学年でも時間を確保し行ってきた成果だと考える。友達やグループ、学級全体への発表をする前に、じっくりと問題と向き合い、自分自身の考えを書く時間をとることで、自信をもって、次の学習活動へ進むことができている姿が窺える。また、児童同士の学び合い等を重視し、自分で導いた答えや考えを友達と交流する活動を大切にしてきた結果が次の数値にも表れている。

(例) 「5年生まで受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」

全国 46.9% 芦原小学校 52.6%

(例) 「5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で、自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習に取り組んでいたと思いますか」

全国 29.5% 芦原小学校 38.9%

(例) 「5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」

全国 37.2% 芦原小学校 52.6%

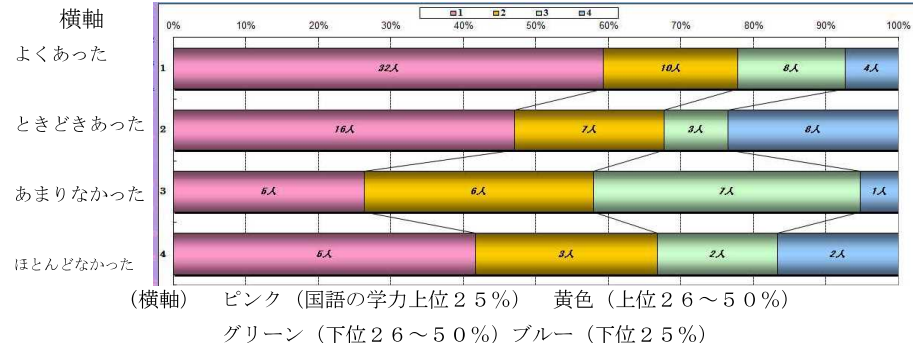
(2) 平成29年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から

埼玉県学力・学習状況調査の質問紙からも、全国調査と同様に、アクティブ・ラーニングの実践効果が表れる結果が見られた。次に示す。

【質問紙から読みとれる学力に関する内容 5年】

○4年生の算数の授業で、自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりした。

(国語の学力の相関関係)



上記の結果から、4年の算数の時間に自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりした経験があるほど、国語の学力が高いことが分かる。同様に、算数の学力においても高い結果が出ている。「芦原小算数授業スタイル」を共通理解の基実施し、「見通し→自力解決→練り上げ→まとめ」を全教職員が児童の発達段階に合わせた方法で確実にやってきたことが成果として表れていると考える。

(3) 「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合調査」

【芦原小学校 H27～29年度の結果比較 4～6年生実施 国算社理の4教科 6月】

年度	授業の内容が わかるだいたいわかる	授業がとても楽しい 少し楽しい	授業に進んで取り組んでいる だいたい取り組んでいる	平均
27	85%	70%	83%	79%
28	86%	74%	83%	81%
29	86%	74%	83%	81%

以上の調査結果から、平成28年度から少しずつではあるが、「授業がとても楽しい・少し楽しい」と感じる児童の割合が改善されてきていることが分かる。全国学力・学習状況調査や県の調査から、本校児童は、授業の内容はよく理解しているが、授業に臨む姿勢や意欲・関心に課題があることが分かった。今後も、「授業がわかり、興味・関心をもって進んで授業に取り組む児童の育成」を目指して、授業改善していく必要がある。

3 実践研究成果の活用方策

- (1) 学校だよりやHP、フェイスブックで授業改善、授業実践を報告
- (2) 学校だより臨時号でアクティブ・ラーニングの取組を具体的に紹介
- (3) 学校公開で積極的に新しい学びの授業を公開
- (4) アクティブ・ラーニング研究員授業研究会を積極的に公開
平成29年9月6日(水) 授業者 5年前田桃子教諭 社会科
アクティブ・ラーニング6則を用いた研究協議会の開催
- (5) アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践を各学年ごとにまとめ、
学力向上プランに位置付け、来年度へ引き継ぎ

【アクティブ・ラーニングの視点での授業実践 H28年度版】

28年度 の担当	UDの視点で 授業の流れを提示	課題とまともを正対 児童の言葉で学習のまとめ 授業の振り返り	ALの推進 (主体的に取り組む態度の育成)	ICTの積極的活用
1年	・学習の流れの型の定着化が繰り返すことで固められた。 ・言葉だけでは伝わらない子、低位の子に向け、視覚的にも配慮した。 ・児童自身が見通しをもつことができた。 ・国語では学力のゴールを示すのはとてもよかった。	・学習の最後に「今日わかった事、大事な事」を児童に聞く。 ・ポイントをおさえてまともにするという流れを定着させた。	・具体物操作、挿し絵を多く使った。 ・興味をもって取り組ませる工夫①担任がわざと間違えて間違いを指摘させた。 ②隣同士ペアで課題解決。	〈実物投影機〉アンケート、図工鑑賞、作業説明、漢字の学習、書写、児童発表、※集中して見る。 (デジタル教科書)算数は動物、乗り物が動くものもあるので、注目してよく見る。 国語は挿絵、動画、ラインを引く。(タブレット)板書撮影、児童の活動写真(図工作品)、前時の記録で次時に活用する。
2年	・単元の流れを示した。 ・学級会グッズの「くらべる」「まとめる」等が使いやすかった。	・課題に対してのまとめをなるべく児童の言葉でできるように、授業の中でまともに使いたい語句を意図的に使うよう呼びかけた。	・学習のゴールを明確化したことで主体的に取り組めた。 ・ペア・グループで積極的に意見を言えた。	・児童の発表に積極的に使った。 ・板書や児童のノートを写真に撮り、活用した。
3年	・算数グッズの活用 ・漢字(新出)を学習	①キーワードを出す ②型を提示する ③児童の言葉でまとめる	・グループ、少人数での話し合いを多く取り入れた。 ・ミニカード、協調学習も少しずつ取り入れた。	〈実物投影機〉理科、書写、発表に活用。 (デジタル教科書)算数はとても便利でよい。ほぼ毎日使っている。(タブレット)総合、国語
4年	・授業の流れを提示することで、教師にとっても児童にとっても見通しがもてた。	・◎○△の振り返りは毎回できる。 ・課題とまともが文としてつながるようにした。	・対話、話し合いを積極的に取り入れた。	・デジタル教科書、学習探検ナビの活用ができた。
5年	・手順を箇条書きで書き、書いたものを全て音聲化(指さしながら) ・板書に書く情報量の精選	・課題の横にまともを書く(板書の構造化) ・まともを書くときはキーワードor穴つめ	・小グループでの課題解決学習を多く取り入れたことで児童が主体的に学習に取り組めた。	・様々な教科で活用 ・実物投影機でタイマーをうつす(児童だけでなく、教師自身も活動の見通しをもつことできた) ・使い方を学年で共有 ・導入の場面で積極的に使用
6年	・タイマーを使用し、時間を区切って授業を行う。 ・色別 ・活動の流れを提示 ・スモールステップで学習を進める。	・どの教科でも課題・まともは取り組めた。	・学習のゴールを明確化したことで学習が活発になった。 ・ICTの活用により、主体的に取り組む児童が増えた。	・理科動画(NHK for School) ・図形(デジタル教科書) ・発表資料作成(オクリンク)
29年度への課題	・国語においては、全ての単元で流れを示すのは難しいので、できるものから実践する。 ・学力差によって、取組方が難しい。合わせる規程をどこにするか今後、検討していけたら。	・学年によっては、児童の言葉でまとめることは少なかった。 ・児童の実態に合わせて、キーワードを使ったり工夫していければ。 ・振り返りの時間がなかなか取れなかった。 ・振り返りの時間の確保(複数学年から) ・1年生前期は挙手や◎○△で、後期からノート等に振り返りを書く。 ・1年は時間的余裕がなく、振り返りがとれない時もあった。	・学力差によって、主体的に取り組む児童とそうでない児童の二極化があった。 ・課題設定の仕方 ・ペア・グループの前に全員が自分の意見をもてるよう、個別指導の徹底が必要。 ・話し合い活動での全員の見届け方、評価の仕方 ・話し合いにおいては、教師が色々なパターンをもっていないと、児童が飽きてしまう。 ・教材研究が必要。 ・話し合い、対話が深い学びにつながったかは、研究の余地がある。	・ムーブメントは活用場面を検討していく。 ・全ての教科でデジタル教科書があるように。 ・デジタル教科書のさらなる効果的な活用を知りたい。 ・より積極的にICTの活用をしていきたい。 ・遠い席の児童は画面が遠く、集中度が下がる。 ・デジタル教科書で動く物と興味をひくが、集中が欠けることもある。 ・機器の不調を改善 ・タブレット「発表します」の不具合。エラーを起こすことが多発。使いたいときに使えない。

※平成29年度も同様に、作成し、来年度へ引き継いでいく。

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立戸田中学校
------	-----------

1 実践研究の具体的内容

平成28年度では、各教科の本質を踏まえた学び、教科の目指す生徒像、研究仮説、具体的な手立てとは何かを各教科で明確にした上で、授業研究に取り組んだ。

平成29年度では、授業研究を行う際に教科の枠を越えて全教員が研究協議を行った。

(1) 研究の方針

①ねらいの明確化

- ・教師が指導しなければならない事項と生徒が主体的に身に付けるべき事項を明らかにし、ねらいを明確に示してAL授業を効果的に行う。

- ・年間指導計画や各単元等におけるアクティブ・ラーニングの位置付けを行う。

②課題設定の工夫

- ・生徒の興味関心を高め、学びの過程で多様な考察ができ、思考力、判断力、表現力を伸ばすことができる課題設定について研究する。

③教材の工夫

- ・学びを深めるために適した教材教具や資料を選択、開発するとともに、ICT、デジタル教科書を活用してALが効果的に機能するようにする。

- ・協調学習、グループディスカッション、ディベート等、生徒が主体的、協働的に学び、確かな学力を身に付けていく多様な学習形態の工夫を行う。

④実態の把握

- ・生徒の実態や思考傾向などを的確に把握し、すべての生徒が意欲的に活動できるようにする。

⑤生徒の変容の把握(評価)

- ・学びの過程や学習成果物から適切に評価し、生徒の思考の変容を客観的に把握するため、評価基準について見直しを図る。

⑥研究実施教科について

- ・国語、社会、数学、理科の4教科を柱として全教科で研究を進める。

(2) 教科等の研究

教科名	研究の方針を受けた各教科における具体的な手立てについて
国語	・学習の手順（ヒント）を提示する ・最終目標を提示する ・評価の方法を分かりやすいものにする。
社会	・課題を設定し、資料を収集、選択して読み取り、考察し表現する。 ・課題解決的な学習を設定する。
数学	・解決方法が複数ある課題を用意する。 ・教え合う場面を指導計画に位置付ける。
理科	・ねらいの明確化 ・課題設定の工夫 ・教材作成の工夫 ・生徒の実態把握 ・生徒の変容把握
音楽	・グループ学習 ・一斉指導 ・視聴覚機器の利用 ・評価シートの作成
美術	・一緒に考える活動をヒントにして、自分の考えを持ち、表現させる。 ・適度に評価する。
保健	・3学年共通の集団行動プログラムの実施 ・体育委員会での縦割り指導 ・体育委員会のプロ化
技・家	・一人一人の役割を決め、グループでの活動をスムーズに行う。 ・基礎、基本を繰り返して体験すること、情報を共有し、活用することで学びを深めることができる。
外国語	・スピーチ ・ペア、グループ活動 ・話し合い活動
特別支援	・生徒の指導計画、個別の支援計画を保護者と一緒に考えていく。 ・生徒の実態に応じて能力別にグループ分けをし、課題を工夫する。 ・実生活にあった体験学習を取り入れる。

(3) 研究授業

①第1回校内授業研究会 平成29年5月15日実施

数学 技術 美術 英語

②第2回校内授業研究会 平成29年7月12日実施 国語（神場教諭）

③授業を見合う期間

第1回目・平成28年 5月24日～ 6月 7日

第2回目・平成28年11月29日～12月16日

第3回目・平成29年 5月23日～ 6月 9日

④目標・課題・ゴール・振り返りの提示

⑤教科の枠を越えた研究協議

各教科等の本質的な学びにせまるため、全教員が教科の枠を越えて研究協議を行った。

○資料 全教科でのICTの活用

場面	教科	ねらい
興味喚起	社会・英語・ 技家	興味を持てるようにする。
理解促進	理科・音楽	説明しにくい、部分の理解を深められるようにする。
授業効率化	数学・美術	黒板等に何度も同じ地図や図、図形問題などを描く手間を省く
教材拡充	国語・保健	これまで見せにくかった教材をわかりやすく見せる。

2 実践研究の成果とその分析

(1) 平成28年度・29年度埼玉県学力・学習状況調査における本校生徒の平均正当率（単位％）
（略）

○全てにおいて伸びを示していることがわかる。高いレベルでありながら学力を伸ばしている。
○全てにおいて、県平均を上回っているが、アクティブ・ラーニング（以下AL）の視点からの授業改善により、思考力・判断力・表現力の育成を中心として生徒の学力を高めていく。
○下位の生徒について個別の対応が必要でまずは基礎学力の向上を継続するとともに見方や考え方の指導を定期的に行う。

(2) 平成28年度全国学力・学習状況調査における本校生徒の平均正当率（単位％）
（略）

平成29年度全国学力・学習状況調査における本校生徒の平均正当率（単位％）
（略）

○各項目において、平均4ポイントほど上昇している。特に数学Bについては、6ポイント以上上昇している。（平均点は4ポイント上昇）
○全てにおいて、県平均を上回っているが、アクティブ・ラーニング（以下AL）の視点からの授業改善により、思考力・判断力・表現力の育成を中心として生徒の学力を高めていく。

(3) 平成28年度・平成29年度戸田市「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」調査における生徒の結果の平均

i. 授業に進んで取り組んでいますか（進んで取り組む、だいたい進んで取り組む生徒の割合）

年度	中1		中2		中3	
	28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度
国語	88	92	90	87	89	86
社会	90	91	82	89	88	87
数学	90	90	77	85	89	83
理科	83	88	78	82	86	79
音楽	85	88	81	85	82	82

美術	80	89	79	85	85	84
保健体育	73	88	69	85	77	85
技術・家庭	77	83	83	77	87	77
英語	83	91	86	83	81	82

○学年が進むにつれ割合が低下する。90ポイントを維持するのが難しい。それでも受験生という意識で勉強に取り組んでいる。

○理科数学の分野で主体的に取り組む生徒の育成が急務である。

<全体を通して>

- ・学力的には平均正答率を上回っているものの基礎的・基本的な学習内容が身に付いていない生徒もおり、個別に対応したきめ細かな指導をする必要がある。
- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することや学びの成果などを説明することが苦手だと感じている生徒が多いなどコミュニケーション能力の伸張が課題である。
- ・生徒の言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力など確かな学力を身に付けさせる授業が十分に展開されていない。
- ・ねらいの提示から振り返りの時間まで見通しをもった授業への改善を図り、学力向上につなげる必要がある。
- ・習得、活用、探究という学びのプロセスについての研究や年間指導計画におけるアクティブ・ラーニングの位置付けが不十分である。

(4) 研究の結果

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数制で話し合う方法や相手に分かりやすく伝えようという姿勢が定着してきた。 ・話し合いを通して互いの表現から学び合い、作品を推敲する意欲が高まり、思考の深化につながった。 ・多くの言葉や考え方に触れ、推敲を重ねながらさらにより作品に仕上げることができた。 ・読書に関し、他のいろいろなジャンルの本に興味を膨らますことができた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかるアンケートより、社会の授業が面白い、わかると答えた生徒がどの教科よりも高かった。これは導入の工夫、ICTの積極的活用など授業に創意工夫が見られたからである。 ・また、課題を適切に設定し、グループ活動を取り入れることで、主体的、対話的な学びが昨年度より増え、意欲的に問題解決に取り組んでいた。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・教え合うことで、解答だけでなく、解答にたどりつくまでの過程を大切にできるようになった。また、直感で解決していた生徒が相手に伝える方法を考えるようになり、数学的用語を用いて、演繹的に解決するようになった。 ・生徒によっては深く掘り下げて考察するようになった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・課題からの実験行程を自ら積極的に考えようとする態度が育成された。 ・実験結果からわかること（考察）を既習事項を土台として科学的にとらえ導き出す態度が育成された。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、授業取組プリントを配布し、(目標・感想・反省・自己評価)を記入させてきた。 ・課題を見つけ、グループで話し合う習慣が身につけてきた。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を行うことで、一人での活動よりも、より活発で深い学習になった。 ・生徒自身も複数で考える活動を行うことで、学習が深まることを理解し、個人の制作でも、周りの人に相談しながらすすめる等といった行動が見られた。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を徹底することにより、活動時間を増やすことができ体力向上を果たしている。新体力テストの判定A+B+Cの合計が85%以上を達成した。 ・体育祭で体育委員長の指示のもと、全体がスムーズに活動できた。競技の練習はもちろんライン引き等の準備作業も3年生の体育委員が中心となり後輩に指示を出し円滑に行った。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を高める学習活動の取組として、他者との対話的・協働的な学習を通して、一人一人の思考を広げ、自分自身の課題解決へと導くことができた。 ・少人数のグループ活動やジグソー活動など指導方法の工夫をし、自分の意見を伝え、他者の意見を聞き、それをもとに自分の考えを深めることができた。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動を多く取り入れたことにより、生徒が英語を使うことへの抵抗感が減り、積極的にスピーキング活動等へ取り組むことができた。また、ペアやグループワークによる学び合い活動により、会話をより一層長続きさせることができた。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習をすることにより、一つ一つの作業に責任を持って行動できるようになった。 ・体験的、実践的な授業(体育・畑・カレンダー販売等)を通して、社会に出たときのルールやマナーを身につけ、自立する能力を養うことができた。

3 実践研究成果の活用方策

(1) 実践協議会において研究成果の普及を行う。

- ①研究部の中にアクティブ・ラーニングの部会を常設し定期的に委員会を開設し推進する。
- ②授業研究や授業を見る会を定期的に行う。
- ③部会とともに教科部会において具体的な授業改善を行う。

(2) 公開授業により研究成果の発表を行う。

- ①学校公開や研究授業発表会において授業を公開する。
- ②年次研修該当者の校内研修の一環として研究授業を行う。

(3) 校区小・中学校の連携による合同授業研究会で、成果を共有する。

- ①学区内の研究主任における共同協議会を開催する。
- ②夏季休業中に共同研修会を今後も継続して行う。

(様式2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえた

アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」

平成29年度委託事業完了報告書【拠点校】

番号	11	都道府県名	戸田市
----	----	-------	-----

拠点校名	戸田市立笹目中学校
------	-----------

1 実践研究の具体的内容

本校は平成25年度より3年間、埼玉県の地域に応じた学力向上推進協力校として委嘱を受け、「魅力ある授業づくり」、「学習環境の整備」、「家庭学習の充実」を切り口として様々なプロジェクトを通して学力向上に取り組んだ。1つ目の「魅力ある授業」については、全教科を通して「協調学習の推進」、「ICTの活用」、「授業のUD化」の3つをコンセプトに授業改善を図った。平成28年度からは、それまでの研究・研修で学んだことを土台に、教科の特性を生かしたアクティブ・ラーニングを目指し、「生徒が能動的に学ぶ授業の工夫・改善」について研究を進めてきた。特に今回の研究では、県教育委員会より示された学習方略について全教員で再確認しながら、生徒が意図的に学習方略を用い、個々の学習効果を高められるような授業改善に取り組んだ。

新学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」とあるが、まずは、教科指導における日常的な習得の活動の中に、教員の教授と生徒の活動のバランスに配慮した授業設計が大切である。その中で、生徒が意欲的に、そして深い理解に到達する指導技術が何よりも重要と考える。

また、本校では全教科で研究授業を行っている。中学校は教科担任制のため、教材研究や授業研究は教科部会が中心となる。研究推進委員会では、教員がどの教科を担当していても共通のテーマで足並みを揃えて研究を進められるよう、教科の垣根を越えたテーマを設定した。それにより、全教員がどの授業についても意見を言い合える環境となるよう配慮した。

2 実践研究の成果とその分析

(1) 客観的な効果検証

①平成29年度埼玉県学力・学習状況調査における本校生徒の平均正当率（単位％）

(略)

②平成29年度全国学力・学習状況調査における本校生徒の平均正当率（単位％）

(略)

③平成29年度戸田市「授業がわかり、興味・関心や意欲をもって取り組んでいる児童生徒の割合」

調査における生徒の結果の平均

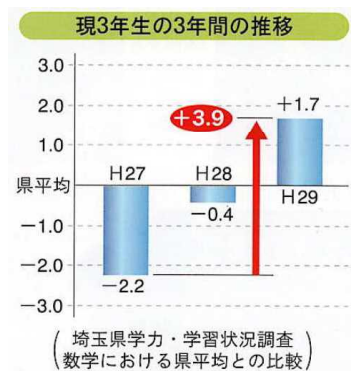
授業に進んで取り組んでいますか（進んで取り組む、だいたい進んで取り組む生徒の割合）

(単位：%)	中1	中2	中3
国語	92	91	90
社会	94	90	93
数学	90	86	88
理科	86	80	75
音楽	91	89	77
美術	89	88	83
技術・家庭	88	83	85
保健体育	78	69	78
英語	96	81	84

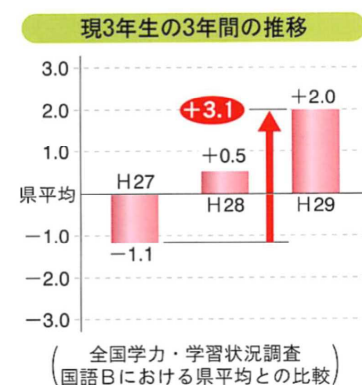
本校では、全国学力・学習状況調査の平均と比較すると、A問題よりもB問題で成果が見られた。数学では、文章や図、グラフなどから問題設定を理解し、示された課題を解決するために、どの知識を活用するかを判断する力が身に付いてきたと言える。答えが1つではない課題について考えたり、自分の考えを書いたりする授業など、アクティブ・ラーニングの視点で授業に取り組んできた結果である。

一方で、A問題は平均以下であった。これらの結果を踏まえると、本校の生徒は「知識」がないと「活用」ができない、という状態ではない。学習過程において試行錯誤することなどを通じて、新しい知識が既得の知識と関係付けられ、構造化され、獲得されるという「活用」から「知識」を習得する生徒もいることが示唆される。このように考えると、知識は「思考・判断・表現」を通じて獲得されたり、その過程で活用されたりするものであり、「思考・判断・表現」との結びつきは事実に知識よりも強い。

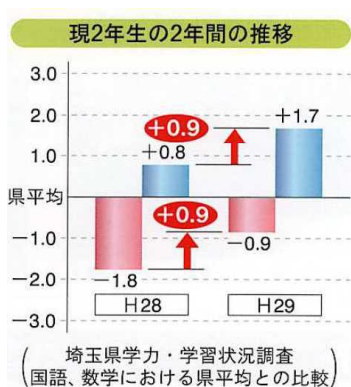
図A



図B



図C



また、年度比較においては、埼玉県学力・学習状況調査の結果から、数学における着実な伸びが見られた。具体的には、3年生は3年間で約4ポイントの上昇、2年生は約1ポイントの上昇が見られた（図A・C）。協調学習の手法を取り入れた授業展開や生徒同士の学び合い活動などアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた効果と考えられる。特に、成果が見られた項目については、日々の確認テストや授業開始時に既習事項の確認などを行ったことが要因と考えられる。

さらに、全国学力・学習状況調査では「国語B」において顕著な伸びが見られた。具体的には、3年生には3年間で約3ポイントの上昇が見られた（図B）。これは、国語の授業で行われる話し合いやスピーチ活動、定期的に行ってきた協調学習の成果と考えられる。一方で、文法など知識の定着については課題と言える。

これらの結果から、アクティブ・ラーニングの視点を学習活動に用いた授業の実践が学力向上につながると考えられる。また、形骸化しないよう留意し、単元や学期、年度

における系統的な学習を行うことが肝要である。毎回の授業に既習事項の確認や小テストを行い、基礎・基本を定着させることが、更なるアクティブ・ラーニングの成果につながるものと考えられる。

(2) 学習方略

学習方略が教科ではどのような活動にあたるのかを教科部会で話し合い、全体で共有し、研究を深めてきた。それにより、これまで授業で行っていたことが、どの学習方略に当てはまるのかを知ることができた。それらを生徒自らが意図的に行うために、まずは、教員が意図的に授業で取り入れ、生徒に示した。

しかし、学習方略に関しては前例がなく手探り状態であったため、研究推進委員会できちんと練り上げることができなかった。また、埼玉県が示す6つの学習方略のすべてを均等に扱うことで、焦点化もできなかった。これからは、学力と正の相関関係がある「プランニング方略」、「認知的方略」、「努力調整方略」の3つに絞って取り組んでいきたい。また、学習方略が本校の生徒の学力を向上させたという客観的な効果検証の方法について研究していきたい。

3 実践研究成果の活用方策

本校では、全教員が一人一役リーダーとなり、様々なプロジェクトを進めてきた。研究授業や公開授業も、特別支援学級を含め全教科で実施した。「チーム笹目中」を合い言葉に全教員で研究を進めることができた。戸田市では、これからの時代を生きる生徒に身に付けさせる能力として、「非認知スキル」、「21世紀型スキル」、「汎用的スキル」を掲げている。市の方針に忠実に、それぞれの学校が抱える課題と真剣に向き合い、学習方略の視点に立った授業展開の工夫が重要であると感ずる。

また、戸田市内では本校の研究や研究体制をモデルとして、校内研修主任を中心に研修会を行った。本校のスタイルがどの学校にも当てはまるとは言えないが、他校の研究の参考となれば幸いである。



学校経営の重点

静かで秩序ある学校、美しい学校を目指して

魅力ある授業づくり

- ICTの活用
- 協働学習の推進
- 授業のユニバーサルデザイン化

- 授業支援ソフトの活用
デジタル教科書
Windows、SOS、ダジャツアース
Google Apps for Education etc.
- 校内コンテストの実施
- 先生校への視察
- 校内研修
- 授業方法の見直し
- ゲストティーチャー
- 進出し学習法
- 丹田博徳造（生徒会）
- 体力向上
（正午のウォーキング）
（体育祭）
- 反転学習
- 特別支援教育における学力向上
- ユニバーサルデザインの活用
- 未来シート
- 小テストの活用
- 授業改善



学習環境の整備

- 校内ユニバーサルデザイン化
- 積極的な生徒指導（生徒会）
- 小中連携
- あじさつ運動
- 小中相互出立考察
- 宿務を受託して発表
- サースターの実施
- 中学生協働活動の心構え
- 小中合同研習会
- 中学生らつこの心構え

- 進路教育の推進
- 校内BGM
- 教科コープの活用
- よつこせ先輩
- （図書・読書委員会）
- 立役
- 美化活動の推進
- JLIP（前学習）
- 学校母体との連携
- 船通
- 心に残る体験学習の実施
- MCシャング、新命館
- 朝読書の充実
- 講話の実施



家庭学習の充実

- 教科ノートの活用
- 学校提供による生徒読書
- 家庭学習ファイルの活用
- 小中連携における家庭学習強化週間
- 書籍プリントの活用
- 家庭学習向上委員会
- 家庭学習の進捗の活用
- 協働学習の活用
- PTA広報による学習支援
- 学習環境ナビ
- 学力向上コーナー設置
- （家庭学習支援ソフト）
- 給食の推進
- （学校区家庭学習の手引き）

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）

学習方略

- ① 多岐的方略
 - 授業の中で多岐にわたる学習方略を身に付け、状況に応じて使い分ける。
- ② プランニング方略
 - 学習の目的や目標を明確にし、学習の進め方や必要な学習資源を事前に計画する。
- ③ 人的リソース方略
 - 学習で必要な知識や技能を、自分自身だけでなく、仲間や先生から学ぶ。
- ④ 認知方略
 - 学習の目的や目標を達成するために、適切な学習方法を考え、実践する。
- ⑤ 努力方略
 - 学習の目的や目標を達成するために、必要な努力を惜しまず、継続的に取り組む。

戸田市立笹目中学校 非認知スキル育成プログラム

「3R」をもつ「中学生」
「3R」をもつ「中学生」
「3R」をもつ「中学生」

- やり抜く力**
 - 受けた課題を最後までやり抜く力
 - 困難を乗り越える力
 - 目標達成までの粘り強さ
 - 粘り強い継続力
 - 粘り強い継続力
- 自制心**
 - 約束を守る力
 - 自分の感情をコントロールする力
 - 自分の感情をコントロールする力
 - 自分の感情をコントロールする力
- コミュニケーション能力**
 - 積極的に学ぶ姿勢
 - 積極的に学ぶ姿勢
 - 積極的に学ぶ姿勢
- 協調性**
 - チームワークで取り組む力
 - チームワークで取り組む力
 - チームワークで取り組む力
- 社会性**
 - 心を豊かにする力
 - 心を豊かにする力
 - 心を豊かにする力

一年次調査
全教科で県及び全国学力・学習状況調査で平均をこえる
平成二十九年十一月九日 研究発表（二年次）

学力向上

※本学校は、家庭学習を推進し、学力向上を図る。詳しくは、学校区家庭学習の手引きをご覧ください。